

第10回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和6年9月2日(金)
開会14時30分 閉会16時16分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|-------|
| 教育長 | 中村 正芳 |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐 |
| 委員(教育長職務代理者) | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 上地 玲子 |
| 委員 | 服部 俊也 |
-
- | | |
|----------|-------------|
| 教育次長 | 國重 良樹 |
| 学校教育推進監 | 室 貴由輝 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 中江 岳 |
| | 総括副参事 滝澤 容彦 |
| 高校教育課 | 課長 鶴海 尚也 |
| 高校魅力化推進室 | 室長 藤原 紳一 |
| 文化財課 | 課長 浜原 浩司 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 協議事項
- (1) 岡山県教育関係功労者表彰について
 - (2) 令和7年度県立高等学校第1学年募集定員の策定方針について
 - (3) 令和6年度岡山県指定重要文化財の指定等の諮問について
- 6 報告事項
- (1) One Young World グローバルサミット2024への生徒派遣について
- 7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。本日の議題のうち、協議事項(1)は表彰案件であること、協議事項(3)は、教育行政の公正を確保する必要があることから、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。協議事項(1)協議事項(3)は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙 手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

協議事項(2) 令和7年度県立高等学校第1学年募集定員の策定方針について

- ・ 高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

生徒受入れの公私比率を70対30に設定しているとの説明であったが、私立の中に通信制の定員は含まれているのか。また通信制が台頭してきており、私立の全日制より通信制に流れる傾向が今後加速するのではないかと危惧している。今後も70対30の割合で良いのか。

(高校魅力化推進室長)

公私比率については、全日制のみを対象としている。この比率については、前回の高等学校教育研究協議会で議論いただいている。

令和11年度以降の高等学校教育体制整備実施計画の策定に向けて高教研を設置することになると思うが、その場では色々検討していかなければならないと考えている。

(委員)

高等学校の教育というと、通信制もあれば全日制もあり、個人の選択があるため想定

している比率にならないとしても、通信制の定員も見ながら議論する必要があるのではないか。

(高校魅力化推進室長)

通信制の定員自体について、県外にある広域通信制で言えば1,000人単位となっているところもあり、その中で定員を見るということは難しいと思っている。

一方で、現在全日制高校進学希望率が年々減少しており、減少している要因については、私学の広域通信制に進学している生徒が増加しているという実態がある。そういった通信制のニーズがあるのであれば、県立高校でも学びを用意する必要があるのではないかと考えている。

この度、通信制ではないが、全通併修を活用しての学びということで、岡山御津高校でフレックス入試制度を創設した。生徒のニーズや時代に応じた学びを用意していかなければならないと思っており、このことも次期高教研では大きな議論になっていくと考えている。

(委員)

気になっていることは、ある程度学校規模がないと教育の質が担保できないという一方で、通信制の場合は、通学がない中で学びが提供できているという点で、公立私立の定員だけではなくて、次期高教研の際には、高等学校教育として、どういう高校が必要となってきているのかという議論が必要ではないか。今までの高校の概念のまま既定の再編整備を行うと、ますます通信制に生徒が流れていく状況が加速するのではないか。

通学時間や通学における金銭的負担を考え、地方では安易に通信制に進学することも考えられるのではないか。

(教育長)

通信制や遠隔授業を含め、今までの対面での学びをどうしていくのかといった内容は、次回高教研では、大きな議論になると思う。

(委員)

本当に学びがどんどん深まっているのであれば、広域通信の学校を新設すればいいと思う。一方で、そうすると全日制高校の存在意義はあるのかと思えてくる。

(委員)

今までは、1学級40人を標準として、40人を下回る学級編制は、全県的な視野に立って検討するという事になっているが、県教委が教育を変革しようとしている中で、デジタル化が重要になってくるのではないか。

例えば教科書の問題等もあるが、ある程度学力が同じであれば、他校の授業を自校で受けられるといったことも必要ではないか。そういったことの議論をしてもよいのではないか。

(高校魅力化推進室長)

委員が言われるオンラインを活用した遠隔授業については、他県で実績がある。その

中で先進県において、できることとできないことが明確になってきている。それも踏まえて本県でも少しずつではあるが、次期高教研で議論ができるように研究を進めているところである。しかし、協働しながら学ぶ部分には一定の意義があり、対面を一切省くといったことにはならないと考えている。

広域通信制では、全日制に近い登校形態をアピールしている学校もある。要は校則に縛られない自由な学校である。県教委としては、岡山御津高校で新たな取組を始めることとしている。

(委員)

通信制の学校は登校日数に比例して費用も掛かるので、お金がないと通えないと聞いたことがある。岡山操山高校の通信制はそうではないので、しっかりアピールしていただきたい。

(学校教育推進監)

委員が言われた登校日数に応じて金額が変わるといったことが県立高校にはなく、岡山御津高校では、そこを狙っている。広域通信制への進学者数が増えているが、中学3年生の5月1日時点で進学希望を調査すると、全日制への進学希望者は多い。ところが、学校に登校できていないことで全日制への進学を諦め、高卒資格を得られる安心感から夏前には広域通信制への進学を決めてしまう。

本当は全日制を希望したり、人との関わりを求めていたりするので、通信制といいながらサポート校に週5日や4日通っている実態がある。そうした中学生に全日制の学校に進学してもらうことができないかと思い、岡山御津高校でフレックス制度を始めた。

あくまで想定であり、実際に来年度どの程度入学するのか、どれだけ全日制に移行できるのか見守っていきたい。想定している動きがあるならば、他校に展開していくことは可能である。

不登校の生徒が、金銭的に通信制に通えず引きこもってしまうといった例もあるので、県立高校として、そこに手を打っていく必要があるのではないかと考えている。

(委員)

全日制への希望が90.2%は高いと思った。5月に調査を実施しているとのことだが、どのように実施しているのか。

(高校魅力化推進室長)

各中学校を通じて、全中学生に実施している。

(委員)

90.2%以外の生徒は、就職希望か。また、年々減少しているとのことだが、以前はどのくらいの数値であったか。

(高校魅力化推進室長)

県内公立・私立は90.2%にカウントされる。カウントされない例は、県外の公立・私立高校。その他には国立学校・定時制・通信制の学校。そして就職希望者である。

数値で言えば、93%の時代もあったが、年々通信制への進学希望が増加している分、全日制への希望が減少している。

(委員)

90.2%のうち希望がかなった割合は何%なのか。

(高校魅力化推進室長)

今年度の入学者で言うと87.5%である。

(委員)

希望がかなわなかった3%をどのように認識しているのか。

(高校魅力化推進室長)

倍率が高い学校を受検し、不合格となり、やむを得ず定時制や通信制に進学する場合や先ほど学校教育推進監が申し上げたように全日制を希望しているが、不登校により早い段階で通信制に進路決定する事実があると認識している。

(委員)

3%の理由を把握していることは重要だと思う。また、様々な事情等はあると思うが、引き続き中学生の希望がかなうようしていただきたい。

40人を下回る学級編制を全県的視野に立って、慎重に検討すると説明があったが、私自身が海外の日本人学校で学び、複式学級も経験したが、学びが深まらなかったことはない。今後積極的に検討していただきたい。

(委員)

私も将来的には、40人学級の枠にあまりこだわらなくてもよいと思う。予算の都合で40人学級が基本なのかもしれないが、義務教育が35人30人学級と議論が出てきている中で、学科によっては40人を下回るほうが、学びが深まることもあるのではないか。現在は慎重にとのことだが、今度はもう少し柔軟な発想が必要になると思う。

(高校魅力化推進室長)

ご指摘のとおり高校の教員数を決定する法律が40人単位を基本としているため、岡山県でも基準としている。しかし、他県でも40人を下回って学級を編制している県はあるため、工夫できることはないか検討してまいりたい。

(委員)

私の周りでも県立高校を第1希望にしている中学生がほとんどであるが、出席日数不足等で、最初から諦めて通信制に進学する人がいる。通信制に進学しても馴染めず、退学してしまい、費用がかかっただけという事例を知っている。県内の保護者の中には、欠席日数や部活動の有無によって県立学校への進学を諦めてしまう状況もあるのではないかと思う。不登校の中学生が高校に進学すると通学できるようになる例があるので、学習意欲がある生徒を途中からでも救えるようなことをしてもらいたい。それが県立高校の魅力にも繋がるし、本当に子どもが通いやすい学校にってもらいたい。また、正しい情報が保護者に伝わるようにしていただきたい。

(教育長)

当初県立を希望していた中学生が、私立へ変更する要因を教えてください。

(高校魅力化推進室長)

中学生に限った話ではないが、早く進学を決めて安心したいという気持ちが要因の一つにある。

特に高校受検では、私学の方が県立より早く入試があり、私学と併願している生徒が合格すると、私学への進学を決め、早く安心したいという思いが強いと中学校の現場からは聞いている。

報告事項(1) One Young World グローバルサミット 2024 への生徒派遣について

・高校教育課長から資料により一括説明

(委員)

昨年度派遣した生徒はアンバサダーとしてどのような活動をしているのか。

生徒を派遣したことでどの程度、周りへの波及効果があるのか教えてください。

(高校教育課長)

現在岡山を離れて学業に励んでおり、県教委が主催するフォーラム等で話をする機会を設けられていないものの、先日、今回の派遣生徒に対して、現地の様子等、しっかりとコミュニケーションを取ってもらった。

将来的にもアンバサダーとしてグローバル人材の育成に積極的に関わってもらいたいと思っている。

(委員)

18歳からの参加資格ということは、会議の際に18歳になっていないと派遣はできないのか。

(高校教育課長)

そのとおりである。受験勉強が本格的になる3年生の秋に18歳になっており、チャレンジ精神がある生徒が応募してくる。今年度8名の応募があったが、面接等を実施している中で、応募してくる生徒については、立派な志を持っていると感じた。

(委員)

8名の男女比はどのようになっているのか。

(高校教育課長)

半々であった。

(委員)

岡山大学との協働による事業の一環として実施されるが、岡山大学からの学生が参加するのか。また、当日会場で発表する場等はあるのか。

(高校教育課長)

岡山大学は従前から2名派遣している。他に1名職員が帯同する。

全体に向けて発表する機会にめぐまれることもあるが、カナダのトルドー首相やノーベル賞受賞者など限られている。昨年度の参加者から話を聞くと、スピーチと並行してネットワーキングやワークショップが行われている。

会社に勤めておられる方や自営業の方、ジェンダーや環境問題について取り組まれている方が多い中で、18歳で参加しているのは珍しく、それだけで他の参加者からは興味を示していただけている。

(委員)

この派遣事業は、派遣者にとって将来的に良い影響が期待される一方で、この事業の目的は、高校生に海外留学や海外との交流を普及することだと思うので、派遣後の活動については、しっかり役割を果たしてもらう必要があるのではないかと思います。

(高校教育課長)

グローバル人材の育成としては、国際課と連携して、毎年留学のフォーラムを実施しており、その場で海外派遣を経験したことを話してもらうことを考えていた。また、体験記のようなものを書いてもらい、高校生に海外との交流をしたいと思ってもらえるきっかけ作りになるようなことも考えている。

(委員)

One Young Worldについて県内の高校生にどのくらい認知されているのか。将来起業等をしていきたいと思って、次世代を担うリーダーの卵と交流したいと思って行くのと行かないのでは、大きな差がある。

派遣する学年が高校3年生であるため、冬に受験があるのは分かるが、卒業するまでにどうやって経験を広めるのか、報告書を作成する等すべきではないか。

岡山県産業振興財団が、「未来へトビタテ！おかやま留学応援事業」として留学を支援しているが、派遣前に留学計画を作成し、帰国後の活動計画等も立てて、支援している。県費で派遣するのであれば、報告書の作成を依頼してもいいのではないか。

(高校教育課長)

高校3年生であることへの配慮は必要だが今後どのように経験を周知するか検討してまいりたい。

(委員)

県費で派遣しているのに報告書もないのは、いかななものか。派遣する金額と同じ金額を使うと、もっと多くの子どもたちが英語に触れる機会を創ることができる。

波及効果がどのくらいあるのか、また、派遣した生徒以外の生徒の英語力がどの程度向上したのか、等の検証をできるだけすべきではないか。

(高校教育課長)

御指摘いただいたことは、可能な限り検討してまいりたい。

(委員)

広島県がおこなっている「ひろしま『ひと・夢』未来塾」はそれほどお金をかけずにすごく良い取組をされている。参考にしてもよいのではないか。

(委員)

例えば2年生で募集して、1年間かけてチームで準備をし、その中の代表が One Young Worldに参加をする。帰国後にチームに持ち帰って、経験をみんなで分かち合うようなやり方もあるのではないかと。そうすると1年間の間に、どうしたらグローバル人材が育つのかというテーマについて、みんなで議論できるのではないかと。そうすることで事前に効果が波及し、学校を超えた探究活動としていいのではないかと思う。来年度も実施するのであれば、少し工夫があってもいいのではないかと。

(高校教育課長)

今後研究してまいりたい。

以下、非公開のため省略

閉会